

一般社団法人 こども環境学会

東日本大震災現地調査（2011年4月30日～5月2日） 報告

（岩手県、山田町、陸前高田市、大船渡市）

調査員：仙田満（代表理事） 木下勇（理事） 中山豊（専務理事） 倉原宗孝（会員、岩手県立大学教授）
コーディネート・同行：三上健（日本ユニセフ協会）

（記録文責：中山 110506）

こども環境学会では、4月23日の「子どもたちに支援を！緊急集会」での議論を踏まえて、4月28日に「東日本大震災支援にかかる行動計画 - 子どもの参画による、子どもにやさしい“まち”の再生を目指して - 」を公表いたしました。これに基づいて、支援活動を進めるために現地調査を実施することとしておりますが、このたび4月30日～5月2日に、日本ユニセフ協会の三上氏のコーディネートにより、岩手県、山田町、陸前高田市、大船渡市の現地調査と併せて、首長始め震災復興関連部局の方々とお会いして意見交換する機会を得ましたのでここに報告いたします。

以下の資料で本会のこどもの視点からの復興の提案（子どもの参画による子どもにやさしいまちづくりなど）と支援計画、国際コンペ計画などについてご説明しました。

説明資料：

東日本大震災にかかる行動計画（こども環境学会 2011年4月28日）

東日本大震災復興プラン国際提案競技（案）（こども環境学会 2011年4月29日）

子どもにやさしいまち「Child-Friendly-City」（木下勇編集 2011年4月）

参考資料：

自由に遊ぶ環境の再構築を（仙田満 2009年12月3日朝日新聞オピニオン）

提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて」（日本学術会議 2008年8月28日）

対外報告「我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて」

（日本学術会議 2007年7月13日）

【概観】

被災地では、当面の避難民対策など復旧活動に手いっぱい状況であり、緊急支援に対しては、感謝の意をいただいた。震災より49日が経ってようやく復興関連部局が組織されたばかりであり、これから復興計画の検討が始まる場所である。その意味では、よい時期に復興計画に対しての提案ができたと思われる。被災された自治体や県の方々の中にも、こども環境学会の提案に対して賛同していただく方は多かった。しかし、計画づくりは始まったばかりであり、子どもの視点は、計画推進の段階で忘れられがちであることから、継続して提案をしていく必要を強く感じた。

被災された自治体職員の復興への熱意は熱く、被災前のまちの復旧ではなく、よりよいまちの復興を目指す強い意志には、提案する我々も圧倒され、感銘を受ける思いであった。こうした人々の熱意に応える国と全国民の継続的な支援が必要であることを改めて強く実感した。

今後、こども環境学会において、他の団体などとも連携して、行動計画および国際提案競技を具体的に推進することが急務である。

【面談・調査の詳細】

4月30日(土) 9:58am はやて115号にて、盛岡到着

14:00pm 山田町長：沼崎喜一氏、教育次長兼学校教育課長：甲斐谷義昭氏と面談。

子どもの視点での復興まちづくりについては、理解できるが、町の力ではどうしようもない状況である。国がどのように支援をしてくれるのか、はっきりした方針が示されないので、どうしてよいかわからない。緊急的な支援をしていただいていることについては、感謝している。(沼崎町長)

15:30pm 山田北小学校(避難者141名)を視察。

県立不来方高校音楽部が合唱慰問し、メッセージカードと義援金100万円を市長に贈呈。



山田町長：沼崎喜一氏と面談。



山田北小学校(避難者141名)を視察。



罹災した山田町駅前。



高台より被災地域を見下ろす。



漁船が乗り上げた建物。



港湾道路沿いの被災地。

5月1日(日)

9:00am 岩手県復興局。都市計画課総括課長：渡邊健治氏、まちづくり再生課主任：伊藤勇喜氏

日本ユニセフ協会：安田直史氏

子どもの参画というのは初めて伺った視点です。ドイツやフランスの例のように少子化に対する解決の報告としても注目したい。震災から 49 日が過ぎて、各自治体で復興プランの検討が始まったばかりであり、大変ありがたい提案です。現時点では住民の生業が問題だが、それと並行して将来のまちづくりをしていかなければならない。被災地から出て行っている方々もいるが、被災地はまだ地域の絆が強い地域であり、それを大切にして、一度出て行っても帰ってきてくれるまちづくりをしたい。復興に際して県と市町村は同じ立場で復興に向かいたい。県と市町村が同じ方向を向いていけば、国もその方向に向かってくれるだろう。今までの考え方では、被災前と同じようなまちづくりしかできないので、提案競技によってさまざまな提案が示されることは、ありがたい。(渡邊課長)

被災地には世界中が注目しており、復興によって世界中から人々が訪れる様なまちを目指したい。(仙田)

住民向けの復興のまちづくりに係るシンポジウムなども実施したい。(ユニセフ三上氏)



岩手県都市計画課総括課長：渡邊健治氏と面談。

14:00pm 陸前高田市 第一中学校（避難者 1,337 名）視察。校庭に仮設住宅建設中



体育館



一階は避難所、二階は中学校。



校庭に仮設住宅を建設中。



最初の仮設住宅（入居済み）。

14:30pm 陸前高田市 教育次長兼生涯学習課長：金賢治氏

まちの9割が流失し、80数センチもの地盤沈下がおきている。教育委員会職員は20名中4名のみしか生存者がいない。私は県職員で、陸前高田市の出身で家も流されてしまったが、4月1日にこちらに出向着任した。当初は子どもや保護者の安否確認に追われながら、学校の再開に向けて全力をあげてきた。今は復旧の段階で、まだ復興ではない。仮設住宅2千戸の敷地は、学校の校庭しかない。いまはやりくりしていくしかない状況だ。しかし、「光が見えないと人は逃げていく」。将来への不安のため、まちを出て行く人が出てきている(80名程度か)。危機感を感じて、学校の立場から市の復興計画を個人的に作成し、市長に提案し4月10日に市長の合意をいただいたところである。「こんなまちをつくり、そこに学校がこんな風に作られる」、そんな夢と希望を市民が共有したい。

学校の立場からの提案に対して「それはわかるけれども・・・お金が・・・」などといわれるが、それは大人の都合であり、かつてないほどの悲しみと辛さを体験している子どもたちのために以前より良いまち、以前より良い学校を作りたい。それが亡くなった方々への無念の思いに報いることだと思う。

私と同じ志のご提案を伺って、感激している。提言をありがたく頂戴し、今後の復興計画に活かしていきたい。

陸前高田の暗い現状を払拭するイメージを作成したので YouTube 陸前高田・希望「心の中の風景」を是非見てください。(以上、金氏)



陸前高田市 教育次長：金賢治氏面談。



仮設の市庁舎。



仮設の市庁舎。



災害復興局の行方不明者捜索ボード。



被災した市庁舎（右）と市民会館（左）



市庁舎周辺



市街地へ入る道路からみる被災地。



高台からみる被災地。

5月2日（月）

10:30am 大船渡市役所。大船渡市議会議員：平田ミイ子氏

大船渡市教育長：今野洋二氏、教育次長：山口清人氏

東海大学：チャレンジセンター所長：大塚滋氏、文学部広報メディア学科教授：小泉眞人、

准教授：五嶋正治氏

東海大学より、学生のボランティア活動で集めた文房具を贈呈。

また大船渡市の二つの地区よりの依頼により間伐材を利用した簡易な木造の仮設公民館を建設して寄贈する。設計図も提供するので、これをモデルとして他の公民館についても応用してほしい。（3.11 生活復興支援・地区公民館建設に関する企画書）

被災者等への支援の一環として、ユニセフと共同で子どもたちが1分間のメッセージを録画する「One Minute Video」プロジェクトを実施予定である。こども環境学会の支援計画とも連携できればと考える。（以上、東海大学より）

防災科学技術研究所からも類似の提案をいただいているので、相互調整をお願いしたい。（今野教育長）

こども環境学会からご提案の子ども視点の視点は、重要と思う。今後復興局が復興計画を作成するので、そちらのご提案をいただきたい。

子どもたちは、3つの大きなストレスの中にある。津波の大きな破壊力による PTSD、家族生活の変化によるストレス、いつもと異なる学校のストレスである。すでに遊びの支援などをしていただいているが、現場へ入り込むプロセスが重要と思うので、よろしくをお願いしたい。弱者のサポートを是非お願いしたい。（今野教育長）

大船渡市長：戸田公明氏、副市長：紀室輝雄氏

私は11月21日に市長選で当選したばかりです。7月までに復興計画案を作成する予定である。当面は復旧が優先されるが、それから先は次世代育成が重要課題であると思う。地区ごとの計画を作成し始めている。戦後復興で世界第一の国となった日本が、どうして

こんなに低迷してしまっているのかと危惧している。海外の国々のように国のビジョンを明確に持たないのが問題ではないか。こども環境学会の提案、提案競技は、是非復興計画の参考にしたい。(戸田市長)

大船渡市災害復興局長：佐藤高廣氏

今後、復興計画案を作成するが、こども環境学会の提案、提案競技については、了解した。(佐藤復興局長)

14:00am **大船渡市リアスホール(避難者112名)視察**



大船渡市教育長：今野洋二氏面談。



大船渡市長：戸田公明氏面談。



被災した商店街。



乗り上げた漁船。



高台から展望する被災地一帯。

16:45pm **岩手県復興局。副局長・理事：平井節生氏、まちづくり再生課主任：伊藤勇喜氏**

今後、復興計画案を作成するが、こども環境学会の提案、提案競技については、了解した。(平井副局長)